様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：６２６１５
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｈ０３５８０

研究課題名（和文）手話翻訳システム構築を目指した手話対話における文単位の認定

研究課題名（英文）Seeking A Sentence Unit of Sign Language: An interdisciplinary approach using the methods of sign language linguistics, deep learning and crowdsourcing

研究代表者
坊農　真弓（Bono, Mayumi）

国立情報学研究所・情報社会相関研究系・准教授

研究者番号：５０４１８５２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　29,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で掲げた(1)から(4)に対し，次の成果を得た.(1)について，既存の『日本手話話し言葉コーパス』に対し，文単位アノテーションを実施した.その結果，文単位を「発話単位」と呼び変えることとした.(2)について，深層学習を用いた画像処理技術で発話単位の候補を示した.(1)の作業を実施するアノテーターに発話単位候補を視覚的に提示し，手の動きの物理的特徴と意味的特徴との関係性を考慮するアノテーション環境を構築した.(3)について，不特定多数の手話話者に文単位認定の結果の適切性を問うには至らなかった.(4)について，手話翻訳システムの基盤となる品詞アノテーションを実施した.

研究成果の学術的意義や社会的意義
これらの研究成果は，既存の手話研究における「用例主体の研究手法」と「語彙のみに固執したアプローチ」を超越するものであり，手話言語学の研究対象を語彙から文に単に押し上げるだけではなく，文単位の方言などの手話言語の社会的位相をさらに豊かに議論することを可能にし，手話認識や手話翻訳などの自発手話の読解の議論を躍進させる可能性を含んでいる．そしてこの種の研究は，言語学分野のみならず情報学分野の協力を得て異分野融合研究の枠組みで進めていくことがもっとも有効である．

研究成果の概要（英文）：This study obtained The following results for (1) to (4). For (1), we performed sentence unit annotation on the existing "JSL corpus." As a result, we decided to change the term "sentence unit" to "utterance unit." For (2), we showed candidates of utterance units using image processing techniques based on deep learning. We constructed an annotation environment that visually presents the candidate utterance units to the annotator performing the task (1) and considers the relationship between the physical and semantic features of the hand movements. Regarding (3), we did not reach the point where an unspecified number of signers were asked about the appropriateness of the results of the sentence unit recognition. As for (4), we have implemented part-of-speech annotation as the basis of a sign language translation system.

研究分野：手話言語学

キーワード：手話言語　日本手話　発話単位　アノテーション　自動セグメンテーション　深層学習　手話翻訳システム　品詞アノテーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究開始当初の学術的背景には，手話研究における「用例主体の研究手法」と「語彙のみに固執したアプローチ」というものがあった．一つ目の用例主体の研究手法とは，手話話者をカメラの前に立たせ，あらかじめ研究者が作った文を産出させるものである．有名なところでは，「/田中/鈴木/弁当/作る/食べる/」 といった文章を産出させ，意味構造を比較・分析する研究などがある(市田,2005)．一方，語彙のみに固執したアプローチとは，手話工学や手話の方言研究で見られるもので，手話語彙の生成や手話語彙の表現的・音韻的差異に着目するものである．有名なところでは，スムーズな手話アニメーションや CG を生成するために，二つ以上の手話語彙をつなぐ時の音韻的な調整を議論したり(比留間他，2012)，各都道府県ひいては各市町村で使われる手話語彙の表現の差異を議論したりするものである(Yano & Matsuoka, 2016；大杉，2012)．これらの研究は全て価値あるものであるが，観察対象が用例や語彙のレベルにとどまり，手話研究の更なる発展を見えにくいものにしていた．

こういった背景に対し，本研究課題の核心をなす学術的「問い」は，手話研究の研究対象を用例や語彙研究に留まらない自発的な文単位のレベルに押し上げることにより，言語学的に何が見えてくるのかであった．一般的に手話には方言があると言われている．しかしながらそれらの多くは，語彙レベルの異なりである．手話話者自身が頻繁に話題に挙げるのは/名前/の事例である．関東では右親指を胸元で正面に向けた左手のひらに押し付けて/名前/を表現する．これは家の門扉の表札を語源とする．一方で関西では右手の人差し指と親指で丸を作り，左の胸元に二回ポンポンと押し当てる．これは胸につけた名札を語源とする．しかしながら，音声言語の関西弁に見られるような文全体にかかった上昇下降を繰り返すイントネーションによる方言や，「やねん，やろ」のような文末の終助詞による方言は，手話研究では報告されていない．また，手話工学ではスムーズな手話アニメーションや CG を生成するために語彙と語彙の音韻的な調整が議論されているが，あくまで生成の話であり，手話認識や手話翻訳のための議論は十分になされていない．

２．研究の目的

本研究は，手話翻訳システム構築を目指し，手話対話における文単位を認定することを目的としていた.手話翻訳システムの構築を目指すとき，文は翻訳の基本単位となる.驚くべきことだが，自発手話対話の文単位は研究上明らかになっていない.一方で，手話を生活言語とする手話話者の間では文単位は自明のことである.対話における文単位は，文の形をしていないことが往々にある.音声言語を例にとってみると，対話における文は「だ，です，ます」といった終助詞で完全に区切られるわけではなく，末尾が省略されるなど不完全なことが多い.

３．研究の方法

本研究では，

(1) 文末(TRP)に出現する NMS(非手指動作)要素を手話話者の協力を得て 特定し，
(2) 深層学習を用いた画像処理技術で文単位を自動セグメンテーションするシステムを構築し，
(3) クラウドソーシングを用いて不特定多数の手話話者に文単位認定の結果の適切性を問い，
(4) 手話翻訳システムのデザインについて検討すること

を研究の方法として予定していた.

４．研究成果

次の通りの研究成果を得た.

(1)について，日本手話を日常的に用いる人々の協力を得て，既存の『日本手話話し言葉コーパス』に対し，文単位アノテーションを実施した.その作業の中で，「文単位」という術語が文法的要素を含む単位として 理解されがちであることを問題と考え，文単位を「発話単位(utterance unit)」と呼び変えることとした.

(2)について，深層学習を用いた画像処理技術で発話単位の候補を示した.(1)の作業を実施するアノテーターに発話単位候補を視覚的に提示し，手の動きの物理的特徴と意味的特徴との関係性を考慮するアノテーション環境を構築した.

(3)について，不特定多数の手話話者に文単位認定の結果の適切性を問うには至らなかった.その理由として，発話単位の定義が未だ定まらないことと，アノテーター間で揺れが大きいことが挙げられる.

(4)について，手話翻訳システムの基盤となる品詞アノテーションを実施した.

これらの研究成果は，既存の手話研究における「用例主体の研究手法」と「語彙のみに固執したアプローチ」を超越するものであり，手話言語学の研究対象を語彙から文に単に押し上げるだけではなく，文単位の方言などの手話言語の社会的位相をさらに豊かに議論することを可能にし，手話認識や手話翻訳などの自発手話の読解の議論を躍進させる可能性を含んでいる．そしてこの種の研究は，言語学分野のみならず情報学分野の協力を得て異分野融合研究の枠組みで進めていくことがもっとも有効である.

4-1．発話単位の特定

(1)について，発話単位の分節化の例を以下に示す．図 1 は，片方の話者(NS_11)が対話相手(NS_12)に直前にみたアニメの内容を語る場面である（Bono et al., 2023）．発話(1)から発話(3)までが連続している．これらの発話は日本手話を母語とするアノテーターによってが発話単位として認定されている．それぞれの発話末周辺で，語りを進める話者(NS_11)が，手話空間から対話相手(NS_12)に視線を一瞬向けている．右上の静止画は ELAN アノテーション上で縦の赤線が示された瞬間を切り取ったもので，話者(NS_11)は視線を対話相手に向けながら，自ら頷いている．この他に発話(1)においても，発話末周辺で対話相手に視線を向けながら頷いている．この現象は，堀内他(2008)が示した「後続うなずき」と呼ばれるもので，「話題化」「順接」「条件」「ロールシフトを抜ける」という接続詞と類似した機能を果たしている．会話分析では同一の順番内に複数の発話を構成する順番構成単位(turn-constructional unit: TCU)が産出されることを，「複数順番(multi-unit turn)」と呼ぶ(Goodwin & Heritage, 1990)．語りが長く続く場合，ろう者は相手の理解の度合いを確認すべく，TCU ごとに対話相手に視線を向け，うなずきを付与することがある．ここで，話者によってうなずきが付与された発話(1)と発話(3)に対し，対話相手が自らの理解を示す短い応答を返している事実から，対話相手に視線を向けることを発話にうなずきを付与することが話者と対話相手との間の知識の共有・理解の促進，すなわち基盤化(grounding)(Clark & Brennan, 1991)にこれらの身体動作が効果を発揮している可能性が示唆される．手話の語りでは，手話表現の意味内容や産出の円滑さのみならず，視線やうなずきといった身体動作が一まとまり性に大いに関与していることが明らかになった．

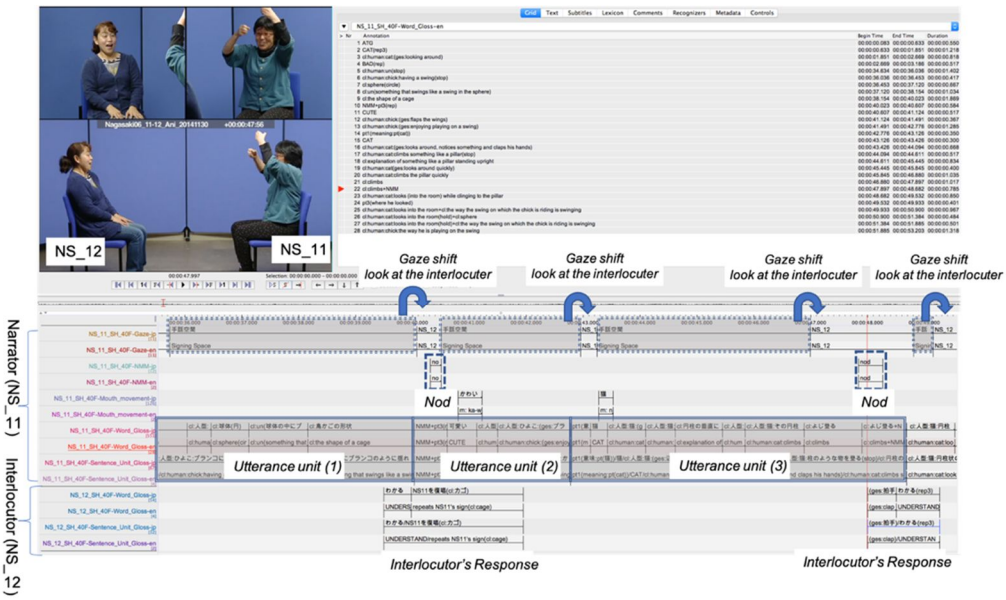

図 1. 話者のうなずきと視線から分節化される発話単位（Bono et al., 2023 より）

4-2．発話単位の自動セグメンテーション

(2)について，発話単位の自動セグメンテーションの例を以下に示す．2017 年，画像処理のトップカンファレンスで，「OpenPose」という深層学習を用いた技術がカーネギーメロン大学の研究チームから発表された(Cao et al., 2017)．OpenPose を用い，既存の『日本手話話し言葉コーパス』の発話単位の自動セグメンテーションを試みた．図 2 は自動セグメンテーションの結果の一例である．手話映像データの静止画から身体の動きを計算し，信号としてアノテーションツール上で表示している．その後，抽出された信号から発話単位を導き出し，アノテーションツールの Auto_Utterance 層に発話単位の候補を表示した．図 2 で確認できるように，アノテーターによる手作業の発話単位二つ分を一つの発話単位と認識するなど，より広い範囲に発話単位の自動セグメンテーションが付与されている．この結果を「発話単位のための補助線」と呼び，実際に補助線を表示して熟達したアノテーターに発話単位のアノテーション作業を依頼した．しかしながら，補助線の使用後の感想は思ったほど良くなかった．「補助線をわざわざ参照してアノテーションを進めたわけではない」などという回答を得た．補助線はあくまで物理的な動きの情報であり，アノテーターが付与するアノテーションはあくまで意味的な動きの情報である．そのあたりの乖離について今後議論と改良が必要である．また補助線は，アノテーター間のアノテーションの揺れを抑えることができる可能性があり，今後そのような有効的な活用を模索したい．

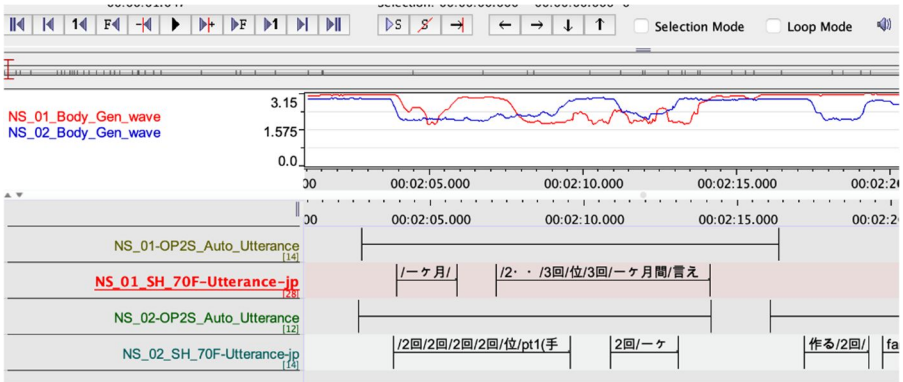

図 2.発話単位の自動セグメンテーション（Bono et al., 2023 より）

4-3. クラウドソーシングを用いた結果の適切性確認

(3)について，上述したように不特定多数の手話話者に発話単位特定の結果の適切性を問うには至らなかった．その理由として，発話単位の定義が未だ定まらないことと，アノテーター間で揺れが大きいことが挙げられる.以下にアノテーター間での揺れの例を示す．図 3 はアノテーター 1 とアノテーター2 がそれぞれ同一データに対して発話単位アノテーションを施した結果の一例である．スラッシュで区切られた手話語彙はほぼ同じものであるが，発話単位の終了位置に揺れがある．

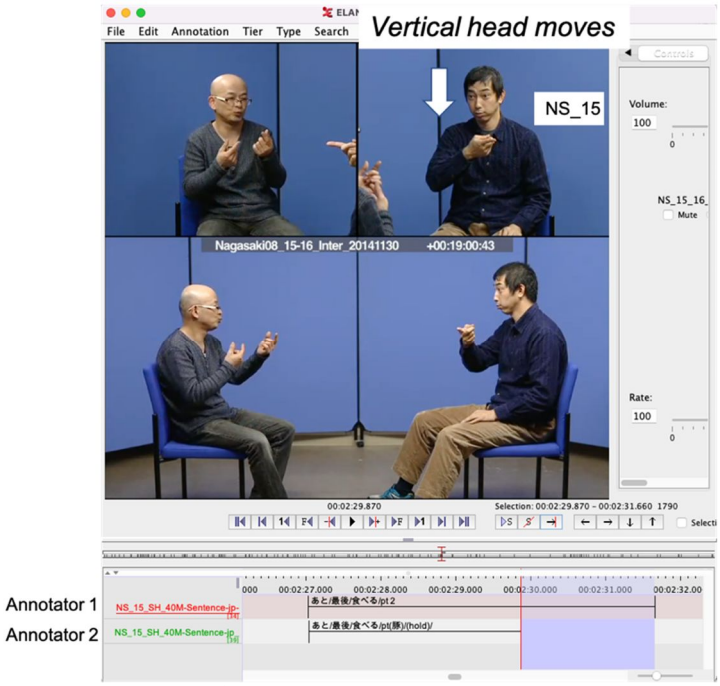

図 3. アノテーター間の発話単位認定の揺れ（Bono et al., 2023 より）

図 3 における向かって右の話者 NS_15 は，発話末尾で縦方向に頭部を動かし，うなずきを加えている．この現象は，堀内他(2008)が示した「後続うなずき」と呼ばれるものである．このうなずきを発話単位に加えるかどうかで，アノテーター2 者間の発話アノテーション結果に揺れが生じている．ここでの問題は，このうなずきが，NS_15 自身の発話に関わる「余韻」のようなものなのか，それともその後の対話相手の応答発話に対するさらなる応答なのかが問題となる．

(a) NS_15 自身の発話に関わる余韻であれば（音声言語における発話末の母音延長と同様)、前の発話単位に含まれるはずであり，すなわち，うなずきが終わった時点で前の発話単位が終了する（アノテーター1 による注釈)．

(b) その現象が対話者の発話に対する応答である場合，前の発話から切り離して，新しい発話単位を注釈する（相手の応答発話に対して完全に重複した短い応答として扱う)．前の発話の終点は，うなずきを除いた語彙の終点であり，うなずきは独立した新たな発話単位もしくは発話単位に含まない身体動作としてアノテーションされるべきである（アノテーター2 による注釈)．

以上のような定義の問題が残っており，不特定多数に対するクラウドソーシングを用いた結果の適切性確認は実現には至らなかった．

4-4. 手話翻訳システムの基盤となる品詞アノテーション

(4)について，特定された発話単位に対し，手話翻訳システムの基盤となる品詞(Part of Speech:POS)アノテーションの付与を実施した．図 4 は，品詞アノテーションの結果の一例である（Bono et al., 2023）．

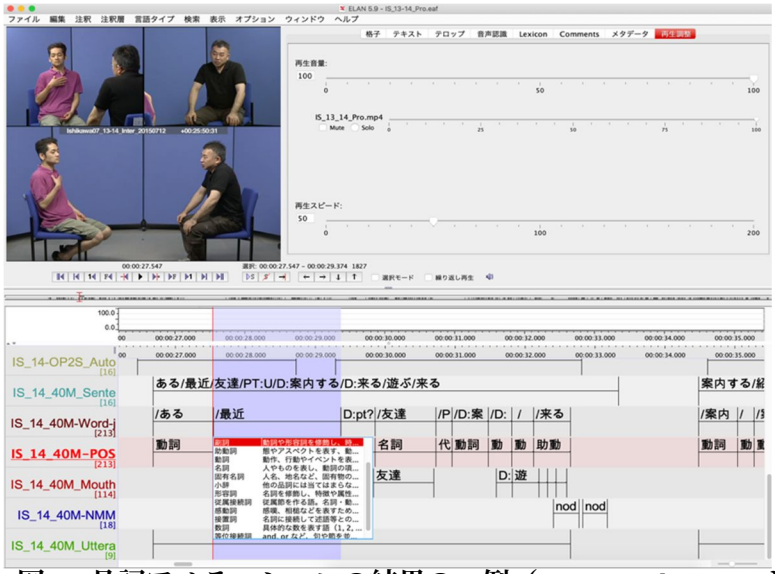

図 4. 品詞アノテーションの結果の一例（Bono et al., 2023 より）

品詞アノテーションは，発話単位の特定，また発話単位内の語彙のセグメンテーションとアノテーションが完了しているデータに足して実施した．図 4 に示すように，アノテーターは，事前にアノテーションツールに管理語として登録された品詞リストから適した品詞を選ぶ．しかしながら，作業の結果，品詞アノテーションはアノテーター間で揺れが生じることが明らかになった．付与された品詞アノテーションを検証したところ，主な不一致の原因が判明した．それは手話データの形態素情報が少ないため，形容詞，名詞，動詞といった品詞タグの区別が文脈によっては難しくなるということであった．例えば、卒業する/卒業、買い物に行く/買い物など，一つの手話語彙が名詞としても動詞としても使用できる場合が多々ある．このような語彙の品詞は，以下のように周囲の語彙との関係から判断することができる．

(1) a. pt1(私)／買い物に行く
　　代名詞　動詞
　　(私は買い物に行く)
　b. 買い物／好き
　　名詞　動詞
　　(私は買い物が好きです)
＊買い物に行く/買い物の手話表現は同一

買い物に行く/買い物の手話表現は，(1-a)のように主語となる名詞と一緒に現れると「動詞」となり，(1-b)のように述語動詞と一緒に現れると「名詞」となる．しかし以下に例示するように固有の曖昧さが存在することが確認された．

(2) a. 買い物／しない
　　動詞　　助動詞
　　(私は買い物に行かない)
　b. 買い物に行く／しない
　　名詞　　動詞
　　(私は買い物を必要としない)

この曖昧さが現れるのは，/買い物/と/しない/の手話表現両方が曖昧であるためである．この曖昧さは意味解釈によってのみ解決されるが，文脈だけでは必ずしも曖昧さ解消に十分とは言えない．このようなケースで品詞注釈に矛盾が生じるのを避けるため，本質的に曖昧なケースにはデフォルトの注釈方法を適用した．例えば(2)のケースについては，(2-a)の「デフォルトアノテーション」採用した．また，アノテーターが共有するアノテーションガイドラインにおいては，アノテーションの一貫性を保つために，アノテーション担当者が参照できる具体例リストとその解決策を提供した．
品詞アノテーションは手話翻訳システムを実現するための基礎情報となりうる．本研究課題で特定した発話単位アノテーションに対し，品詞アノテーションを付与する試みは将来対話翻訳システムを構築する際，有効活用できる知識と知見の蓄積となった．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計107件（うち査読付論文　72件／うち国際共著　9件／うちオープンアクセス　33件）

１．著者名 Bono Mayumi、Okada Tomohiro、Kikuchi Kouhei、Sakaida Rui、Skobov Victor、Miyao Yusuke、Osugi Yutaka	４．巻 SCL 108
２．論文標題 Chapter13. Utterance unit annotation for the Japanese Sign Language Dialogue Corpus	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Advances in Sign Language Corpora	６．最初と最後の頁 353～382
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1075/scl.108.13bon	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Mayumi Bono, Robert Adam	４．巻 なし
２．論文標題 Online Cross-Signing Project Between the United Kingdom and Japan: First Phase of Data Collection	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Proceedings of JSAI-isAI2023	６．最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 浅野 倫子、清河 幸子、服部 雅史、布山 美慕、平 知宏、坊農 真弓、川合 伸幸、小橋 康章、森田 純哉、中村 國則、白水 始、創刊30周年記念特集編集編委員会、寺田 和憲	４．巻 30(1)
２．論文標題 座談会：『認知科学』の過去・現在・未来を語る	５．発行年 2023年
３．雑誌名 認知科学	６．最初と最後の頁 89～93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11225/cs.2022.080	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 創刊30周年記念特集研究編委員会、日高 昇平、坊農 真弓、小林 春美、織田 涼、高橋 康介	４．巻 30(1)
２．論文標題 第1部 研究編 「認知科学各分野の30年とこれからの展望」 編集にあたって	５．発行年 2023年
３．雑誌名 認知科学	６．最初と最後の頁 8～11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11225/cs.2022.069	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 坊農真弓・今井倫太	4．巻 30(1)
2．論文標題 誌上対談「対話・インタラクション」研究の発展と潮流	5．発行年 2023年
3．雑誌名 認知科学	6．最初と最後の頁 37~45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小磯花絵，天谷晴香，居關友里子，臼田泰如，柏野和佳子，川端良子，田中弥生，伝康晴 ，西川賢哉 ，渡邊友香	4．巻 24
2．論文標題 『日本語日常会話コーパス』設計と特徴	5．発行年 2023年
3．雑誌名 国立国語研究所論集	6．最初と最後の頁 153-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Junjie Chen, Xiangheng He, Yusuke Miyao	4．巻 1
2．論文標題 Modeling Syntactic-Semantic Dependency Correlations in Semantic Role Labeling Using Mixture Models	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Proceedings of the 60th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (Volume 1: Long Papers)	6．最初と最後の頁 7959-7969
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Michimasa Inaba, Yuya Chiba, Ryuichiro Higashinaka, Kazunori Komatani, Yusuke Miyao, Takayuki Nagai	4．巻 -
2．論文標題 Collection and Analysis of Travel Agency Task Dialogues with Age-Diverse Speakers	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Proceedings of LREC 2022	6．最初と最後の頁 5759-5767
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tu-Anh Tran, Yusuke Miyao	4．巻 -
2．論文標題 Development of a Multilingual CCG Treebank via Universal Dependencies Conversion	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Proceedings of LREC 2022	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丸山 岳彦、小磯 花絵、西川 賢哉	4．巻 22
2．論文標題 『昭和話し言葉コーパス』の設計と構築	5．発行年 2022年
3．雑誌名 国立国語研究所論集 = NINJAL Research Papers	6．最初と最後の頁 197～221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00003522	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉田奈央，宮尾祐介	4．巻 -
2．論文標題 『日本語日常会話コーパス』に対する自然会話特有の現象を区別するための係り受け関係ラベルの付与	5．発行年 2021年
3．雑誌名 言語処理学会 第27回年次大会 発表論文集	6．最初と最後の頁 1129-1133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 稲葉 通将，東中 竜一郎，千葉 祐弥，駒谷 和範，宮尾 祐介，長井 隆行	4．巻 -
2．論文標題 多様な年代の話者による旅行代理店タスク対話コーパスの収集と分析	5．発行年 2021年
3．雑誌名 第93回 言語・音声理解と対話処理研究会	6．最初と最後の頁 192-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Namgi Han, Katsuhiko Hayashi, Yusuke Miyao	4．巻 -
2．論文標題 Analyzing Word Embedding Through Structural Equation Modeling	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of the 12th Language Resources and Evaluation Conference	6．最初と最後の頁 1823-1832
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Teruaki Oka, Yuichi Ishimoto, Yutaka Yagi, Takenori Nakamura, Masayuki Asahara, Kikuo Maekawa, Toshinobu Ogiso, Hanae Koiso, Kumiko Sakoda, Nobuko Kibe	4．巻 -
2．論文標題 KOTONOHA: A Corpus Concordance System for Skewer-Searching NINJAL Corpora	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of the 12th Edition of its Language Resources and Evaluation Conference	6．最初と最後の頁 7077-7083
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 馬場 雪乃	4．巻 65
2．論文標題 ヒューマンコンピュテーションとクラウドソーシング	5．発行年 2020年
3．雑誌名 オペレーションズ・リサーチ	6．最初と最後の頁 323-327
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Baba, Yukino , Li, Jiyi , Kashima, Hisashi	4．巻 -
2．論文標題 CrowDEA: Multi-view Idea Prioritization with Crowds	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of the 8th AAAI Conference on Human Computation and Crowdsourcing (HCOMP)	6．最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Namgi Han, Hiroshi Noji, Katsuhiko Hayashi, Hiroya Takamura, Yusuke Miyao	4．巻 28(4)
2．論文標題 Probing Simple Factoid Question Answering Based on Linguistic Knowledge	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Natural Language Processing	6．最初と最後の頁 938-964
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 隅田敦，峯島宏次，宮尾祐介	4．巻 -
2．論文標題 定理証明に基づく対話的な自然言語推論システム	5．発行年 2021年
3．雑誌名 言語処理学会 第27回年次大会 発表論文集	6．最初と最後の頁 1751-1755
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤 崇宏，鷲尾 光樹，林 克彦，宮尾 祐介	4．巻 -
2．論文標題 議論の構造化と妥当性評価のためのBayesian Argumentation-Scheme Networksの提案とアノテーションデータ作成	5．発行年 2021年
3．雑誌名 情報処理学会 第248回自然言語処理研究会	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Wenjie Zhong, Yusuke Miyao	4．巻 -
2．論文標題 Leveraging Partial Dependency Trees to Control Image Captions	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Proceedings of the Second Workshop on Advances in Language and Vision Research	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Koiso Hanae	4．巻 29
2．論文標題 The Construction of the full version of the Corpus of Everyday Japanese Conversation	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Natural Language Processing	6．最初と最後の頁 224～229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5715/jnlp.29.224	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hanae Koiso , Haruka Amatani , Yasuharu Den , Yuriko Iseki , Yuichi Ishimoto , Wakako Kashino , Yoshiko Kawabata , Ken'ya Nishikawa , Yayoi Tanaka , Yuka Watanabe , Yasuyuki Usuda	4．巻 -
2．論文標題 Design and Evaluation of the Corpus of Everyday Japanese Conversation	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Proceedings of 13th Language Resources and Evaluation Conference	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fujii Kazuki、Saito Yuki、Takamichi Shinnosuke、Baba Yukino、Saruwatari Hiroshi	4．巻 2920-May
2．論文標題 Humangan: Generative Adversarial Network With Human-Based Discriminator And Its Evaluation In Speech Perception Modeling	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of the 45th International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processing (ICASSP)	6．最初と最後の頁 6239-6243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/ICASSP40776.2020.9053844	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Li Jiyi、Kawase Yasushi、Baba Yukino、Kashima Hisashi	4．巻 -
2．論文標題 Performance as a Constraint: An Improved Wisdom of Crowds Using Performance Regularization	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of the 29th International Joint Conference on Artificial Intelligence (IJCAI)	6．最初と最後の頁 1534-1541
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24963/ijcai.2020/213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kusano Hitoshi、Horiguchi Yuji、Baba Yukino、Kashima Hisashi	4．巻 -
2．論文標題 Stress Prediction from Head Motion	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of the 2020 IEEE 7th International Conference on Data Science and Advanced Analytics (DSAA)	6．最初と最後の頁 488-495
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/DSAA49011.2020.00063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Osugi Yutaka	4．巻 5
2．論文標題 Transforming Research into Sign Language and Identity Advocacy in the Community	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Deaf Studies Digital Journal	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3998/dsdj.15499139.0005.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉田 将明 ， 畠山 純恵 ， 白澤 麻弓 ， 大杉 豊	4．巻 4
2．論文標題 手話言語による医療通訳の存在と課題	5．発行年 2021年
3．雑誌名 国際臨床医学会雑誌	6．最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古屋敷一美 ， 鈴木美紀 ， 槇原理恵 ， 山口龍子 ， 吉田将明 ， 大杉豊	4．巻 19
2．論文標題 病院内手話言語通訳者のネットワーク構築に向けて「病院で働く手話言語通訳者の全国実態調査」結果の考察から	5．発行年 2022年
3．雑誌名 手話通訳：実践と研究	6．最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菊地 浩平、七田 麻美子、須永 将史	4．巻 29
2．論文標題 オンライン活動で立ち現れる 「物足りなさ」と「本拠としての現地」：企業研修におけるDX事例の研究	5．発行年 2022年
3．雑誌名 認知科学	6．最初と最後の頁 243～255
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11225/cs.2022.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Liu Yuting、Wang Zheng、Shi Miaojing、Satoh Shin'ichi、Zhao Qijun、Yang Hongyu	4．巻 -
2．論文標題 Towards Unsupervised Crowd Counting via Regression-Detection Bi-knowledge Transfer	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ACM Multimedia	6．最初と最後の頁 129－137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1145/3394171.3413825	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sha Zijun、Zeng Zelong、Wang Zheng、Natori Yoichi、Taniguchi Yasuhiro、Satoh Shin'ichi	4．巻 -
2．論文標題 Progressive Domain Adaptation for Robot Vision Person Re-identification	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ACM Multimedia	6．最初と最後の頁 4488-4490
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1145/3394171.3414358	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤 真一	4．巻 26(4)
2．論文標題 マルチメディア検索と深層学習	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本神経回路学会誌	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Han Changhee、Rundo Leonardo、Murao Kohei、Noguchi Tomoyuki、Shimahara Yuki、Milacski Zolt?n ?d?m、Koshino Saori、Sala Evis、Nakayama Hideki、Satoh Shin’ichi	4．巻 22
2．論文標題 MADGAN: unsupervised medical anomaly detection GAN using multiple adjacent brain MRI slice reconstruction	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMC Bioinformatics	6．最初と最後の頁 31-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12859-020-03936-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kastner Marc A.、Matsuhira Chihaya、Ide Ichiro、Satoh Shin'ichi	4．巻 -
2．論文標題 A multi-modal dataset for analyzing the imageability of concepts across modalities	5．発行年 2021年
3．雑誌名 4th IEEE International Conference on Multimedia Information Processing and Retrieval(MIPR)	6．最初と最後の頁 213-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/MIPR51284.2021.00039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Iinuma Yuko、Satoh Shin'ichi	4．巻 -
2．論文標題 Video Action Retrieval Using Action Recognition Model	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ICMR '21: International Conference on Multimedia Retrieval(ICMR)	6．最初と最後の頁 603-606
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1145/3460426.3463579	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hu Mengshun、Xiao Jing、Liao Liang、Wang Zheng、Lin Chia-Wen、Wang Mi、Satoh Shin'Ichi	4．巻 32
2．論文標題 Capturing Small, Fast-Moving Objects: Frame Interpolation via Recurrent Motion Enhancement	5．発行年 2022年
3．雑誌名 IEEE Transactions on Circuits and Systems for Video Technology	6．最初と最後の頁 3390～3406
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/TCSVT.2021.3110796	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Zhang Jian、Hanjalic Alan、Jain Ramesh、Hua Xiansheng、Satoh Shinaichi、Yao Yazhou、Zeng Dan	4．巻 24
2．論文標題 Guest Editorial: Learning From Noisy Multimedia Data	5．発行年 2022年
3．雑誌名 IEEE Transactions on Multimedia	6．最初と最後の頁 1247～1252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/TMM.2022.3159014	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Egusa Ryohei、Komiya Naoki、Kusunoki Fusako、Mizoguchi Hiroshi、Namatame Miki、Inagaki Shigenori	4．巻 -
2．論文標題 Development of a Learning-Support System for Science Using Collaboration and Body Movement for Hearing-Impaired Children: Learning Support for Plant Germination and Growth Conditions	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Computers Helping People with Special Needs - 17th International Conference	6．最初と最後の頁 157～165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-030-58805-2_19	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 江草 遼平、青木 良太、楠 房子、稲垣 成哲	4．巻 45
2．論文標題 科学系博物館におけるマンガ表現による解説法のデザイン：キャラクターと吹き出しの導入による読み取りプロセスの変化に関する事例的検討	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本科学教育学会年会論文集	6．最初と最後の頁 399～402
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14935/jssep.45.0_399	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 牧野 遼作，坂井田 瑠衣，坊農 真弓	4．巻 43
2．論文標題 社会的インタクションの定性的研究:振る舞いの連なりに対する相互行為分析	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of the Society of Biomechanisms	6．最初と最後の頁 188～194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3951/sobim.43.3_188	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 坂井田 瑠衣、坊農 真弓、牧野 遼作	4．巻 19
2．論文標題 「次の場所まで歩く」ことの相互行為的組織化	5．発行年 2019年
3．雑誌名 質的心理学研究	6．最初と最後の頁 7～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24525/jaqp.19.1_7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yang Gao ， Steffen Eger ， Ilia Kuznetsov ， Iryna Gurevych ， Yusuke Miyao	4．巻 N/A
2．論文標題 Does My Rebuttal Matter? Insights from a Major NLP Conference	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of NAACL-HLT 2019	6．最初と最後の頁 1274-1290
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.48550/arXiv.1903.11367	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 宮尾 祐介	4．巻 34(6)
2．論文標題 多様なデータと自然言語をつなぐ基盤技術	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人工知能	6．最初と最後の頁 8121-816
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11517/jjsai.34.6_811	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小磯 花絵	4．巻 102
2．論文標題 話し言葉コーパスの構築と公開	5．発行年 2019年
3．雑誌名 電子情報通信学会誌 = The journal of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	6．最初と最後の頁 554～557
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00003012	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小磯 花絵	4．巻 32
2．論文標題 『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の構築	5．発行年 2019年
3．雑誌名 計量国語学	6．最初と最後の頁 133～142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24701/mathling.32.2_133	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yuichi Ishimoto, Hanae Koiso	4．巻 -
2．論文標題 Prosodic diversity according to relationship among participants in everyday Japanese conversation	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of LPSS 2019	6．最初と最後の頁 62-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hanae Koiso, Masayuki Asahara, Salvatore Carlino, Ken'ya Nishikawa, Kazuki Aoyama, Yuichi Ishimoto, Aya Wakasa, Michiko Watanabe, Yoshimi Yoshikawa, Nobuko Kibe, Kikuo Maekawa	4．巻 -
2．論文標題 Speech corpora in NINJAL, Japan demonstration of corpus concordance systems : Chunagon and Kotonoha	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of LPSS 2019	6．最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小磯 花絵、天谷 晴香、居關 友里子、臼田 泰如、柏野 和佳子、川端 良子、田中 弥生、伝 康晴、西川賢哉	4．巻 18
2．論文標題 『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国立国語研究所論集 = NINJAL Research Papers	6．最初と最後の頁 17～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00002540	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sakata Yusuke、Baba Yukino、Kashima Hisashi	4．巻 -
2．論文標題 Crownn: Human-in-the-loop Network with Crowd-generated Inputs	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processing (ICASSP)	6．最初と最後の頁 N/A
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/ICASSP.2019.8682321	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sunahase, Takeru; Baba, Yukino; Kashima, Hisashi	4．巻 -
2．論文標題 Probabilistic Modeling of Peer Correction and Peer Assessment	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Educational Data Mining Society, Paper presented at the International Conference on Educational Data Mining (EDM)	6．最初と最後の頁 6 pages
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tanaka Daiki、Baba Yukino、Kashima Hisashi、Okubo Yuta	4．巻 -
2．論文標題 Large-scale Driver Identification Using Automobile Driving Data	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the 2019 IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics (SMC)	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/SMC.2019.8914377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Uo Kousuke、Kobayashi Masaki、Matsubara Masaki、Baba Yukino、Morishima Atsuyuki	4．巻 -
2．論文標題 Active Learning Strategies for Hierarchical Labeling Microtasks	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of 2019 IEEE International Conference on Big Data (Big Data	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/BigData47090.2019.9006224	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 尾田将史，大杉豊	4．巻 7
2．論文標題 聾学校における手話教育の系統性の在り方（前編）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 手話・言語・コミュニケーション	6．最初と最後の頁 62-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾田将史，大杉豊	4．巻 8
2．論文標題 聾学校における手話教育の系統性の在り方（後編）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 手話・言語・コミュニケーション	6．最初と最後の頁 63-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yang Fan、Satoh Shinrichi	4．巻 N/A
2．論文標題 Burst-survive Temporal Matching Kernel with Fibonacci Periods	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ICASSP 2019 - 2019 IEEE International Conference on Acoustics, Speech and Signal Processing (ICASSP)	6．最初と最後の頁 N/A
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/ICASSP.2019.8682971	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Wang Zhixiang、Wang Zheng、Zheng Yinqiang、Chuang Yung-Yu、Satoh Shin'ich	4．巻 N/A
2．論文標題 Learning to Reduce Dual-Level Discrepancy for Infrared-Visible Person Re-Identification	5．発行年 2019年
3．雑誌名 2019 IEEE/CVF Conference on Computer Vision and Pattern Recognition (CVPR)	6．最初と最後の頁 N/A
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/CVPR.2019.00071	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Changhee HAN, Kohei MURAO, Shin’ichi SATOH, Hideki NAKAYAMA	4．巻 37(3)
2．論文標題 Learning More with Less: GAN-based Medical Image Augmentation	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Medical Imaging Technology	6．最初と最後の頁 137-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Wang Zheng、Yang Fan、Satoh Shin'ichi	4．巻 27
2．論文標題 Salient Time Slice Pruning and Boosting for Person-Scene Instance Search in TV Series	5．発行年 2019年
3．雑誌名 MMAsia '19: Proceedings of the ACM Multimedia Asia	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1145/3338533.3366594	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Stefanov Kalin、Bono Mayumi	4．巻 N/A
2．論文標題 Towards Digitally-Mediated Sign Language Communication	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the 7th International Conference on Human-Agent Interaction	6．最初と最後の頁 286–288
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1145/3349537.3352794	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 坂井田 瑠衣，坊農 真弓，牧野 遼作	4．巻 19
2．論文標題 「次の場所まで歩く」ことの相互行為的組織化：科学コミュニケーターによる来館者誘導の身体的プラクティス	5．発行年 2020年
3．雑誌名 質的心理学研究	6．最初と最後の頁 7-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kansal Kajal、Subramanyam A.V.、Wang Zheng、Satoh Shinrichi	4．巻 なし
2．論文標題 SDL: Spectrum-Disentangled Representation Learning for Visible-Infrared Person Re-identification	5．発行年 2020年
3．雑誌名 IEEE Transactions on Circuits and Systems for Video Technology	6．最初と最後の頁 1～1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/TCSVT.2019.2963721	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Akira Miyazawa ， Yusuke Miyao	4．巻 26(2)
2．論文標題 Automatically computable metrics to generate metaphorical verb expressions	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Natural Language Processing	6．最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 浅原正幸 ， 金山博 ， 宮尾祐介 ， 田中貴秋 ， 大村舞 ， 村脇有吾 ， 松本裕治	4．巻 26(1)
2．論文標題 Universal Dependencies 日本語コーパス	5．発行年 2019年
3．雑誌名 自然言語処理	6．最初と最後の頁 3-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Bono, Mayumi., Sakaida, Rui., Okada, Tomohiro., and Miyao, Yusuke.	4．巻 なし
2．論文標題 Utterance-Unit Annotation for the JSL Dialogue Corpus: Toward a Multimodal Approach to Corpus Linguistics	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of the LREC 2020, 9th Workshop on the Representation and Processing of Sign Languages	6．最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okuda Makoto、Satoh Shinichi、Sato Yoichi、Kidawara Yutaka	4．巻 なし
2．論文標題 Community Detection Using Restrained Random-walk Similarity	5．発行年 2019年
3．雑誌名 IEEE Transactions on Pattern Analysis and Machine Intelligence	6．最初と最後の頁 1～1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/TPAMI.2019.2926033	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李 吉屹，馬場 雪乃，鹿島 久嗣	4．巻 17-J(8)
2．論文標題 超問題：専門知識を要するクラウドソーシングタスクの回答統合法	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本データベース学会和文論文誌	6．最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Trejo, Karla., Angulo, Cecilio., Satoh, Shin’ichi., & Bono, Mayumi.	4．巻 10(1)
2．論文標題 Towards robots reasoning about group behavior of museum visitors: Leader detection and group tracking	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Ambient Intelligence and Smart Environments	6．最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 馬場 雪乃，高瀬 朝海，新 恭兵，小山 聡，鹿島 久嗣	4．巻 9(4)
2．論文標題 教育用データ解析コンペティション基盤の設計と実践	5．発行年 2018年
3．雑誌名 情報処理学会デジタルプラクティス	6．最初と最後の頁 859-873
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yukino Baba, Tetsu Isomura, Hisashi Kashima	4．巻 80
2．論文標題 Wisdom of Crowds for Synthetic Accessibility Evaluation	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Molecular Graphics and Modelling	6．最初と最後の頁 217-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 臼田泰如，川端良子，西川賢哉，石本祐一，小磯花絵	4．巻 15
2．論文標題 『日本語日常会話コーパス』における転記の基準と作成手法	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国立国語研究所論集	6．最初と最後の頁 177-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小磯花絵，伝康晴	4．巻 15
2．論文標題 『日本語日常会話コーパス』データ公開方針 ―法的・倫理的な観点からの検討を踏まえて―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国立国語研究所論集	6．最初と最後の頁 75-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hanae Koiso, Yasuharu Den, Yuriko Iseki, Wakako Kashino, Yoshiko Kawabata, Ken’ya Nishikawa, Yayoi Tanaka, Yasuyuki Usuda	4．巻 なし
2．論文標題 Construction of the Corpus of Everyday Japanese Conversation: An Interim Report	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Proceedings of the 11th edition of the Language Resources and Evaluation Conference	6．最初と最後の頁 4259-4264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hanae Koiso, Yasuyuki Usuda, Haruka Amatani, Yoshiko Kawabata, Yasuharu Den	４．巻 なし
２．論文標題 Design and Preliminary Analysis of the Corpus of Everyday Japanese Conversation	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Proceedings of LREC2018 Workshop: LB-ILR2018 and MMC2018 Joint Workshop	６．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計78件（うち招待講演　22件／うち国際学会　25件）

１．発表者名 佐藤 真一
２．発表標題 機械学習によるメディア画像処理 ~大規模学習データセットに基づく機械学習手法の威力とその限界
３．学会等名 第41回日本医用画像工学会大会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yutaka OSUGI
２．発表標題 Sign Language - What Is It? the ESCAP Guide for Legal Recognition of Sign Languages in Asia and the Pacific
３．学会等名 High Level Intergovernmental Meeting on the Final Review of the Asian and Pacific Decade of Persons with Disabilities（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 大杉豊，グラハム・プリン，緒方壽人
２．発表標題 インクルーシブ・デザインは、文化をどのようにドライブするか?
３．学会等名 だれもが文化でつながる国際会議（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 ボロトベック・クズ・サイカル，大杉 豊
２．発表標題 聴覚障害のあるキルギス人の手話言語使用状況と言語意識に関する予備的研究
３．学会等名 キルギスのおける日本語教育開始30周年記念日本語教育国際研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 KOBAYASHI Yoko , OSUGI Yutaka , ISHIHARA Yasushi
２．発表標題 Deaf and Hard of Hearing Employee's Interest in Career-Building
３．学会等名 23rd International Congress on the Education of the Deaf (ICED)
４．発表年 2021年

１．発表者名 鵜尾，厚佑，伊藤，寛祥，松原，正樹，森嶋，厚行，馬場，雪乃
２．発表標題 セマンティックセグメンテーションにおけるアノテーションコストを考慮した能動学習
３．学会等名 2021年度人工知能学会全国大会(第35回)
４．発表年 2021年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究に向けて
３．学会等名 シンポジウム「日常会話コーパス」VIII
４．発表年 2023年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 『日本語日常会話コーパス』 構築・公開の経験から
３．学会等名 コーパスの構築・利用と個人情報保護
４．発表年 2023年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 コーパスを活用した言語コミュニケーション研究
３．学会等名 第14回産業日本語研究会・シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 日常会話コーパスがもたらす語用論研究の可能性
３．学会等名 NINJALシンポジウム「言語資源学の創成:開かれた言語資源による日本語研究」
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 コーパスを通して見ることばの特徴
３．学会等名 中京大学文学会秋季大会公開講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 コーパスに対する日本語韻律ラベリングを活用した話し言葉研究の可能性
３．学会等名 第4回社会言語科学会シンポジウム:プロソディを通して見る社会とコミュニケーション
４．発表年 2022年

１．発表者名 Skobov, Victor and Bono, Mayumi
２．発表標題 Automatic Movement Detection and Preprocessing for Annotation of the Japanese Sign Language Corpus
３．学会等名 International Seminar on Sign Language Research 2021, Current Issues in Sign Language Research（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 坊農真弓
２．発表標題 手話相互行為における日本語と日本手話の関係―『日本手話話し言葉コーパス』からみた言語使用―
３．学会等名 NINJAL国際シンポジウム 「第11回 日本語実用言語学国際会議（ICPLJ11）」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 坊農真弓
２．発表標題 手話研究と人工知能研究の融合
３．学会等名 特別セッション2「手話研究と対話処理」チュートリアル講師，人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 第89回研究会（JSAI-SIG-SLUD）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kanato Ochiai, Mayumi Bono
２．発表標題 How Do Deafblind People Represent Their Attitudes?: "Shaking-Fingers" in Finger Braille Conversations
３．学会等名 17th International Pragmatics Conference (IPrA 2021)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Bono, Mayumi., Sakaida, Rui., Okada, Tomohiro., and Miyao, Yusuke.
２．発表標題 Utterance-Unit Annotation for the JSL Dialogue Corpus: Toward a Multimodal Approach to Corpus Linguistics
３．学会等名 9th Workshop on the Representation and Processing of Sign Languages: Sign Language Resources in the Service of the Language Community, Technological Challenges and Application Perspectives（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 坊農真弓，坂井田瑠衣，落合哉人，福島智
２．発表標題 指点字通訳を介した相互行為：他者開始による修復の連鎖を手がかりに
３．学会等名 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 第89回研究会（JSAI-SIG-SLUD）
４．発表年 2020年

１．発表者名 坊農真弓，葛岡英明，高梨克也，伝康晴，細馬宏通
２．発表標題 ビデオカメラパラドックス-我々は触ることにどこまで迫れるか-
３．学会等名 特別セッション1「触ることとインタラクション」，パネルディスカッション，人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 第89回研究会（JSAI-SIG-SLUD）
４．発表年 2020年

１．発表者名 落合哉人，坊農真弓
２．発表標題 盲ろう者はいかにして大げさに話すか：指点字を介した会話における「揺さぶり」の事例分析
３．学会等名 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 第89回研究会（JSAI-SIG-SLUD）
４．発表年 2020年

１．発表者名 上田 佳祐，石垣 達也，小林 一郎，宮尾 祐介，高村 大也
２．発表標題 実況における発話ラベル予測
３．学会等名 情報処理学会 第251回自然言語処理研究会（第23回音声言語シンポジウムおよび第8回自然言語処理シンポジウム）
４．発表年 2021年

１．発表者名 神藤駿介，能地宏，宮尾祐介
２．発表標題 言語モデルの統語構造把握能力を測定するより妥当な多言語評価セットの構築
３．学会等名 言語処理学会 第28回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 上田佳祐，石垣達也，小林一郎，宮尾祐介，高村大也
２．発表標題 実況発話ラベル予測モデルにおける状況認識素性の活用
３．学会等名 言語処理学会 第28回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 上田亮，石井太河，宮尾祐介
２．発表標題 創発言語でもHarris の分節原理は成り立つのか?
３．学会等名 言語処理学会 第28回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Qiang Zhang, Jason Naradowsky, Yusuke Miyao
２．発表標題 Rethinking Offensive Text Detection as a Multi-Hop Reasoning Problem
３．学会等名 Findings of the 60th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Shunsuke Kando, Hiroshi Noji, Yusuke Miyao
２．発表標題 Multilingual Syntax-aware Language Modeling through Dependency Tree Conversion
３．学会等名 Proceedings of the 6th ACL Workshop on Structured Prediction for NLP (SPNLP)（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 若崎 颯，神藤 駿介，宮尾 祐介
２．発表標題 描写内容に従った音楽評論文書の分類に対する自動化アプローチ
３．学会等名 2022年度 人工知能学会全国大会（第36回）
４．発表年 2022年

１．発表者名 濵園 侑美、Marrese-Taylor Edison、石垣 達也、宮尾 祐介、小林 一郎、高村 大也
２．発表標題 一般ドメイン動画実況生成
３．学会等名 2022年度 人工知能学会全国大会（第36回）
４．発表年 2022年

１．発表者名 横川悠香，石垣達也，上原由衣，宮尾祐介，高村大也，小林一郎
２．発表標題 修辞構造と語彙難易度を制御可能なテキスト生成手法に向けて
３．学会等名 言語処理学会 第29回年次大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 上田亮，石井太河，鷲尾光樹，宮尾祐介
２．発表標題 範疇文法導出を用いた創発言語の構成性の評価
３．学会等名 言語処理学会 第29回年次大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Muxuan Liu，石垣達也，上原由衣，宮尾祐介，高村大也，小林一郎
２．発表標題 社会的状況に基づいた日本語ビジネスメールコーパスの構築
３．学会等名 言語処理学会 第29回年次大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 石井太河，宮尾祐介
２．発表標題 対称的な系列集合を用いた教師なし構文解析モデルの分岐バイアスの検証
３．学会等名 言語処理学会 第29回年次大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 加藤大地，上田亮，宮尾祐介
２．発表標題 簡素なモデルでの創発言語の接触によるクレオール単純化の再現
３．学会等名 言語処理学会 第29回年次大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 日常会話コーパスに見る配慮の表現・行動の多様性
３．学会等名 NINJALシンポジウム 「言語コミュニケーションの多様性」
４．発表年 2020年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 対話データを用いた研究における文理連携の可能性を探る
３．学会等名 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会（SLUD） 第91回研究会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 コーパスを通して日常のことばの特徴を探る
３．学会等名 第16回NINJALフォーラム「ここまで進んだ！ここまで分かった！多様な言語資源に基づく日本語研究」
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 話し言葉の分析：『日本語日常会話コーパス』CEJC
３．学会等名 講演会「日本語コーパスの設計・構築・応用」
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 『日本語日常会話コーパス』を活用した話し言葉研究の可能性
３．学会等名 シンポジウム 日常会話コーパスVII
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 『日本語日常会話コーパス』バランスの検証と研究の可能性
３．学会等名 シンポジウム「ことば・認知・インタラクション10」
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵，天谷晴香，石本祐一，居關友里子，臼田泰如，柏野和佳子，川端良子，田中弥生，伝康晴，西川賢哉，渡邊友香
２．発表標題 『日本語日常会話コーパス』の設計と特徴
３．学会等名 言語処理学会第28回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵，天谷晴香，居關友里子，臼田泰如，柏野和佳子，川端良子，田中弥生，滕越，西川賢哉
２．発表標題 『子ども版日本語日常会話コーパス』の構築
３．学会等名 言語資源ワークショップ2022
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 コーパスに対する日本語韻律ラベリングを活用した話し言葉研究の可能性
３．学会等名 第4回社会言語科学会シンポジウム：プロソディを通して見る社会とコミュニケーション
４．発表年 2022年

１．発表者名 小磯花絵
２．発表標題 「日本語日常会話コーパス」の構築と利用可能性
３．学会等名 日本音響学会音声研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yutaka OSUGI
２．発表標題 Sign Languages and Information Accessibility
３．学会等名 EXPERT GROUP MEETING: FINAL REVIEW OF THE ASIAN AND PACIFIC DECADE OF PERSONS WITH DISABILITIES（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 大杉 豊
２．発表標題 一人ひとりのウェルビーイングを実現する文化活動の可能性
３．学会等名 だれもが文化でつながる国際会議（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ted Supalla, Yutaka Osugi
２．発表標題 Integrating Historical Sign Language Database Design and Historical Linguistics for Tracing Etymological and Morphological Changes
３．学会等名 Linguistic Society of America 97th Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 菊地浩平
２．発表標題 手話通訳場面におけるアクセシビリティ実践の研究
３．学会等名 認知科学会第39回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 岡田智裕 ， 坊農真弓
２．発表標題 日本手話会話におけるろう者の言語使用―年代別のろう者のマウジング使用頻度に着目して―
３．学会等名 第43回社会言語科学会研究大会（JASS）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuki Fujii, Yuki Saito, Shinnosuke Takamichi, Yukino Baba, Hiroshi Saruwatari
２．発表標題 HumanGAN: Generative Adversarial Network with Human-based Discriminator and its Evaluation in Speech Perception Modeling
３．学会等名 45th International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processing (ICASSP)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Stefanov, Kalin., and Bono, Mayumi.
２．発表標題 Towards Digitally-Mediated Sign Language Communication
３．学会等名 7th International Conference on Human-Agent Interaction (HAI2019)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Bono, Mayumi., and Sakaida, Rui.
２．発表標題 Halting Progressivity and Repair in Signed and Tactile Interaction:A Study of Intersubjective Understanding in Sign Language and Finger Braille
３．学会等名 The 15th International Pragmatics Conference (16th IPRA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 矢野 羽衣子，大杉 豊
２．発表標題 不就学ろう者の手話表現分析：宮窪手話との比較考察による位置付けの試み
３．学会等名 日本手話学会第45回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 宮尾祐介
２．発表標題 自然言語処理の問題を見つける・作る
３．学会等名 情報処理学会連続セミナー2019（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 宮尾祐介
２．発表標題 ことばを通してコンピュータの気持ちを知る
３．学会等名 第129回東京大学公開講座（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takeru Sunahase, Yukino Baba, Hisashi Kashima
２．発表標題 Probabilistic Modeling of Peer Correction and Peer Assessment
３．学会等名 12th International Conference on Educational Data Mining (EDM), 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小磯花絵，天谷晴香，石本祐一，居關友里子，臼田泰如，柏野和佳子，川端良子，田中弥生，伝康晴，西川賢哉
２．発表標題 『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の設計と特徴
３．学会等名 言語処理学会第25回年次大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 八木豊，中村壮範，浅原正幸，前川喜久雄，小木曽智信，小磯花絵，迫田久美子，木部暢子
２．発表標題 複数コーパスの包括的検索系
３．学会等名 言語処理学会第25回年次大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Bono, Mayumi.
２．発表標題 Collaborative Repair in Sign Language Interaction: Which Signer Solves the Trouble in a Visually Connected Situation?
３．学会等名 The 5th International Conference of Conversation Analysis (ICCA2018)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Bono, Mayumi.
２．発表標題 How do deafblind people share their stance?: A comparative analysis of expressing laughter in tactile Japanese sign language and finger braille interactions
３．学会等名 The 8th International Conference of Gesture Studies (ISGS8)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sakaida, Rui., & Bono, Mayumi.
２．発表標題 When nonverbal behavior is interpreted: Strong orientation toward embodiment in finger braille interpretation
３．学会等名 The 8th International Conference of Gesture Studies (ISGS8)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Makino, Ryosaku., & Bono, Mayumi.
２．発表標題 Hand positions for showing speakership: A report of language selection by the deafblind man
３．学会等名 The 8th International Conference of Gesture Studies (ISGS8)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Bono, Mayumi., Sakaida, Rui., Makino, Ryosaku., and Ayami, Joh.
２．発表標題 Miraikan SC Corpus: A Trial of Data Collection in Semi-opened and Semi-controlled Environment
３．学会等名 The 11th edition of the Language Resources and Evaluation Conference (LREC)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Bono, Mayumi., Sakaida, Rui., Makino, Ryosaku., Okada, Tomohiro., Kikuchi, Kouhei., Cibulka, Mio., Willoughby, Louisa., Iwasaki, Shimako., & Fukushima, Satoshi.
２．発表標題 Tactile Japanese Sign Language and Finger Braille: An Example of Data Collection for Minority Languages in Japan
３．学会等名 The 8th Workshop on the Representation and Processing of Sign Languages: Involving the Language Community, The 11th edition of the Language Resources and Evaluation Conference (LREC)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sakaida, Rui., Makino, Ryosaku., & Bono, Mayumi.
２．発表標題 Preliminary Analysis of Embodied Interactions between Science Communicators and Visitors Based on a Multimodal Corpus of Japanese Conversations in a Science Museum
３．学会等名 The 11th edition of the Language Resources and Evaluation Conference (LREC)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 坊農真弓
２．発表標題 マルチモーダルインタラクションからみた手話
３．学会等名 HCGシンポジウム2018特別セッションIII（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 坊農真弓
２．発表標題 手と身体と会話のことば学
３．学会等名 情報処理学会 第80回全国大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 坊農真弓
２．発表標題 手話と日本語の関係
３．学会等名 言語処理学会 第24回年次大会(NLP2018)（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 坊農真弓
２．発表標題 身体に刻みこまれた二つのことばの記憶：手話・触手話・指点字からみた日本語
３．学会等名 第41回社会言語科学会研究大会(JASS) 20周年記念シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Hanae Koiso , Yasuharu Den , Yuriko Iseki , Wakako Kashino , Yoshiko Kawabata , Ken’ya Nishikawa , Yayoi Tanaka , Yasuyuki Usuda
２．発表標題 Construction of the Corpus of Everyday Japanese Conversation: An Interim Report
３．学会等名 LREC 2018 Special Speech SEssions: Speech Resources Collection in Real-World Situations（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計15件

１．著者名 日本手話研究所	４．発行年 2020年
２．出版社 文理閣	５．総ページ数 236
３．書名 手話・言語・コミュニケーション No.8: 日本手話研究所50周年記念号	

１．著者名 日本手話研究所	４．発行年 2021年
２．出版社 文理閣	５．総ページ数 265
３．書名 手話・言語・コミュニケーション No.9: 難聴とコミュニケーション	

1．著者名 日本手話研究所 ，高田英一 ，大杉豊 ，加藤三保子 ，国広生久代 ，黒崎信幸 ，草野真範	4．発行年 2022年
2．出版社 文理閣	5．総ページ数 206
3．書名 手話・言語・コミュニケーションNo.10	

1．著者名 日本手話研究所 ，高田英一 ，大杉豊 ，加藤三保子 ，国広生久代 ，黒崎信幸 ，草野真範	4．発行年 2023年
2．出版社 文理閣	5．総ページ数 196
3．書名 手話・言語・コミュニケーション No.11	

1．著者名 小磯花絵	4．発行年 2022年
2．出版社 くろしお出版	5．総ページ数 216
3．書名 「書き言葉・話し言葉における縮約形の実態:コーパスに基づく分析を通して」窪薗 晴夫、朝日 祥之編『言語コミュニケーションの多様性』	

1．著者名 アダム・ケンドン 著/坊農真弓・牧野遼作 訳，チブルカみお(翻訳協力)	4．発行年 2023年
2．出版社 新曜社	5．総ページ数 492
3．書名 「23章 共在相互行為において自らを空間づけること・自らの向きを定めること」山崎 敬一、浜 日出夫、小宮 友根、田中 博子、川島 理恵、池田 佳子、山崎 晶子、池谷 のぞみ編『エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック』	

1．著者名 坊農真弓	4．発行年 2023年
2．出版社 文理閣	5．総ページ数 326
3．書名 「会話の連鎖組織」菊澤律子、吉岡乾編『しゃべるヒト』	

1．著者名 大杉豊・坊農真弓	4．発行年 2023年
2．出版社 文理閣	5．総ページ数 326
3．書名 「色々の名称とことば(日本の手話言語)」菊澤律子、吉岡乾編『しゃべるヒト』	

1．著者名 菊澤律子、吉岡乾	4．発行年 2023年
2．出版社 文理閣	5．総ページ数 326
3．書名 しゃべるヒト	

1．著者名 坊農真弓	4．発行年 2023年
2．出版社 ひつじ書房	5．総ページ数 -
3．書名 「ろう者はいかに他者と対峙するか―手話相互行為における日本手話と日本語のハイブリッド現象 ―」『言語・コミュニケーション研究の地平』	

1．著者名 Takehiko Maruyama ， Yasuharu Den ， Hanae Koiso	4．発行年 2020年
2．出版社 J. Benjamins	5．総ページ数 440
3．書名 In Search of Basic Units of Spoken Language: A Corpus-driven Approach	

1．著者名 坊農真弓	4．発行年 2018年
2．出版社 金子書房	5．総ページ数 34
3．書名 「多数派の会話にはルールがあるの？」綾屋 紗月 編著『ソーシャル・マジョリティ研究: コミュニケーション学の共同創造』	

1．著者名 久松三二・大杉豊（共編），全日本ろうあ連盟	4．発行年 2019年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 312
3．書名 手話言語白書：多様な言語の共生社会をめざして	

1．著者名 Iryna Gurevych ， Yusuke Miyao	4．発行年 2018年
2．出版社 Association for Computational Linguistics	5．総ページ数 -
3．書名 Proceedings of the 56th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics	

１．著者名 細馬宏通，菊地浩平	４．発行年 2019年
２．出版社 ひつじ書房	５．総ページ数 288
３．書名 ELAN入門：言語学・行動学からメディア研究まで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

坊農研究室
http://research.nii.ac.jp/~bono/ja/
日本手話話し言葉コーパスプロジェクト
http://research.nii.ac.jp/jsl-corpus/public/
みんなでつくる日本手話話し言葉コーパス
http://research.nii.ac.jp/jsl-corpus/research/index.html
国立情報学研究所坊農研究室
http://research.nii.ac.jp/~bono/ja/index.html
手話コーパスワークショップ：スウェーデン手話コーパスの設計
http://research.nii.ac.jp/~bono/ja/event/20191216.html
盲ろう者コミュニティにおけるコミュニケーションアクセス-スウェーデン・オーストラリア・日本からの報告
http://research.nii.ac.jp/~bono/ja/event/20191214.html
国際手話に関する講演会：人は共有言語なしに意思疎通できるのか？
http://research.nii.ac.jp/~bono/ja/event/Onno.html
Homo loquens ‘talking human’
https://loquens.site/
第14回国際手話言語学会
https://www.tislr2022.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	宮尾　祐介 (Miyao Yusuke) (00343096)	東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授 (12601)	
研究分担者	小磯　花絵 (Koiso Hanae) (30312200)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・音声言語研究領域・教授 (62618)	
研究分担者	馬場　雪乃 (Baba Yukino) (40711453)	筑波大学・システム情報系・准教授 (12102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大杉　豊 (Osugi Yutaka) (60451704)	筑波技術大学・障害者高等教育研究支援センター・教授 (12103)	
研究分担者	菊地　浩平 (Kikuchi Kouhei) (60582898)	筑波技術大学・産業技術学部・助教 (12103)	
研究分担者	佐藤　真一 (Satoh Shin'ichi) (90249938)	国立情報学研究所・コンテンツ科学研究系・教授 (62615)	
研究分担者	菊澤　律子 (Kikusawa Ritsuko) (90272616)	国立民族学博物館・人類基礎理論研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	楠　房子 (Kusunoki Fusako) (40192025)	多摩美術大学・美術学部・教授 (32640)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	岡田　智裕 (Okada Tomohiro)	国立情報学研究所・情報社会相関研究系・技術補佐員 (62615)	
研究協力者	シュコボフ　ビクトール (Skobov Victor)	総合研究大学院大学・複合科学研究科情報学専攻・大学院生 (12702)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計4件

国際研究集会 Homo loquens ‘talking human’ Wonders of Language and Languages	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Theoretical Issues in Sign Language Research 14	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 手話コーパスワークショップ：スウェーデン手話コーパスの設計	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際手話に関する講演会：人は共有言語なしに意思疎通できるのか？国際手話の事例から	開催年 2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	ラドバウド大学言語学部			
スウェーデン	ストックホルム大学言語学部			